

キャリアパス委員会主催ランチョンセミナー2019

『それでいいのか？研究室の選び方』

事前アンケート結果まとめ

【アンケートの趣旨】（「ご協力のお願い」より）

MBSJ 2019日本分子生物学会年会では、「研究室の選び方」をランチョンセミナーで取り上げます。今回の企画では、学部学生、大学院生、ポスドク、non-PI研究者、PI研究者など異なる立場の研究者から、「どのように研究室を選んだか」、「研究室はどうあるべきか」、「理想的なボスとは」、「理想のスタッフ、学生とは」などについて、それぞれの立場から情報提供いただき、イマドキの理想の研究室について皆様と議論したいと思います。以下のアンケートは、当日のディスカッションの貴重な題材として使用させていただきますので、お忙しいところ恐縮ですが、是非幅広い年齢層の皆様の協力をお願い申し上げます。

（所要時間：5分程度）

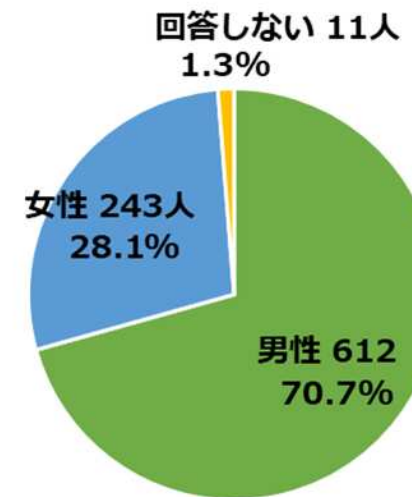
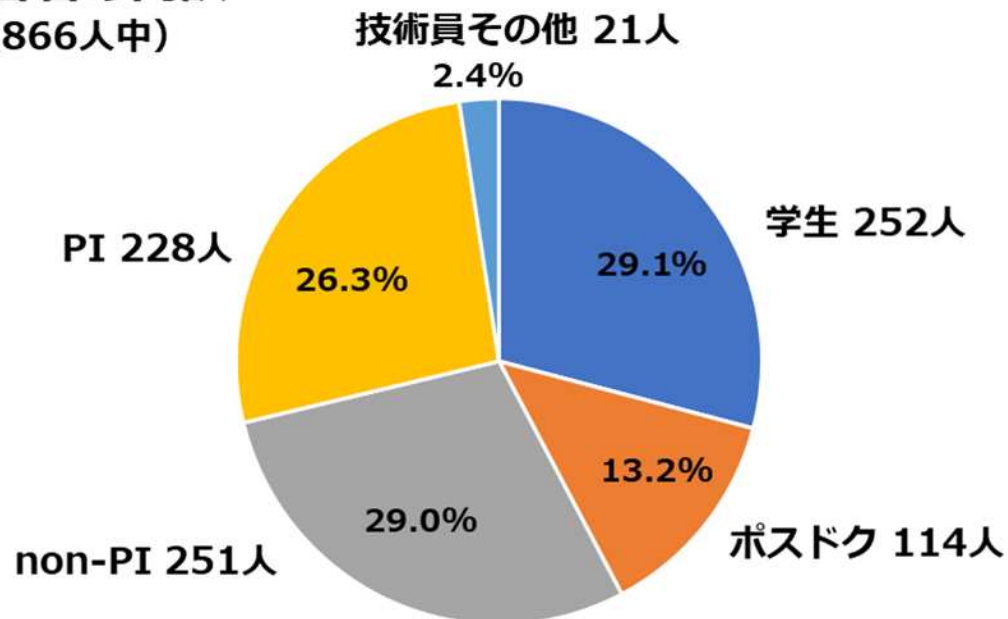
【アンケート実施期間】 2019年8月5日（月）～8月26日（月） 17:00

日本分子生物学会キャリアパス委員会

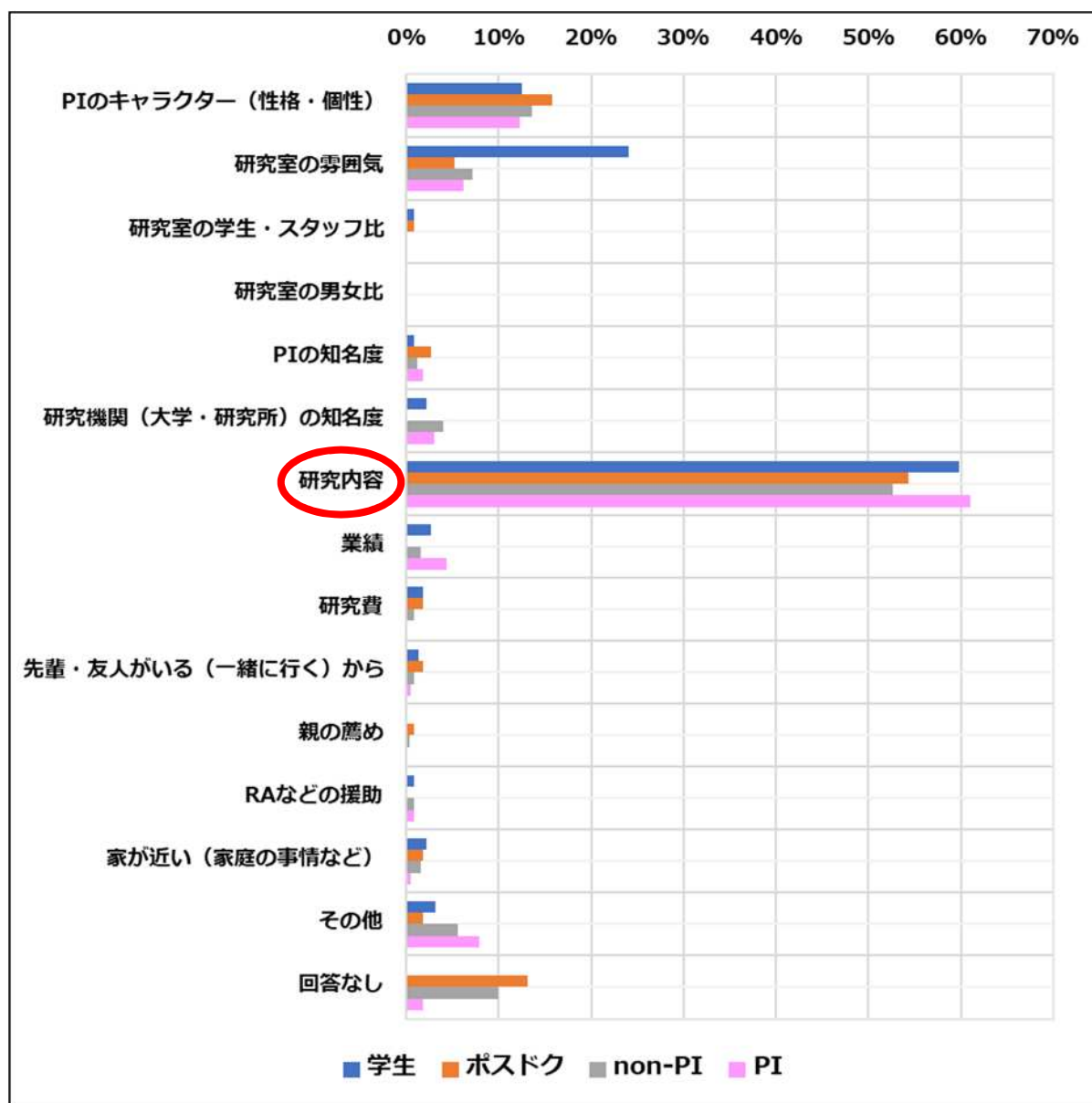
キャリアパス委員会主催ランチョンセミナー2019 『それでいいのか？研究室の選び方』事前アンケート

2019.8.5-26実施 回答者数：866件

回答者の内訳
(866人中)



大学院の時の研究室を選ぶにあたり、最も大きな決め手になったのは？



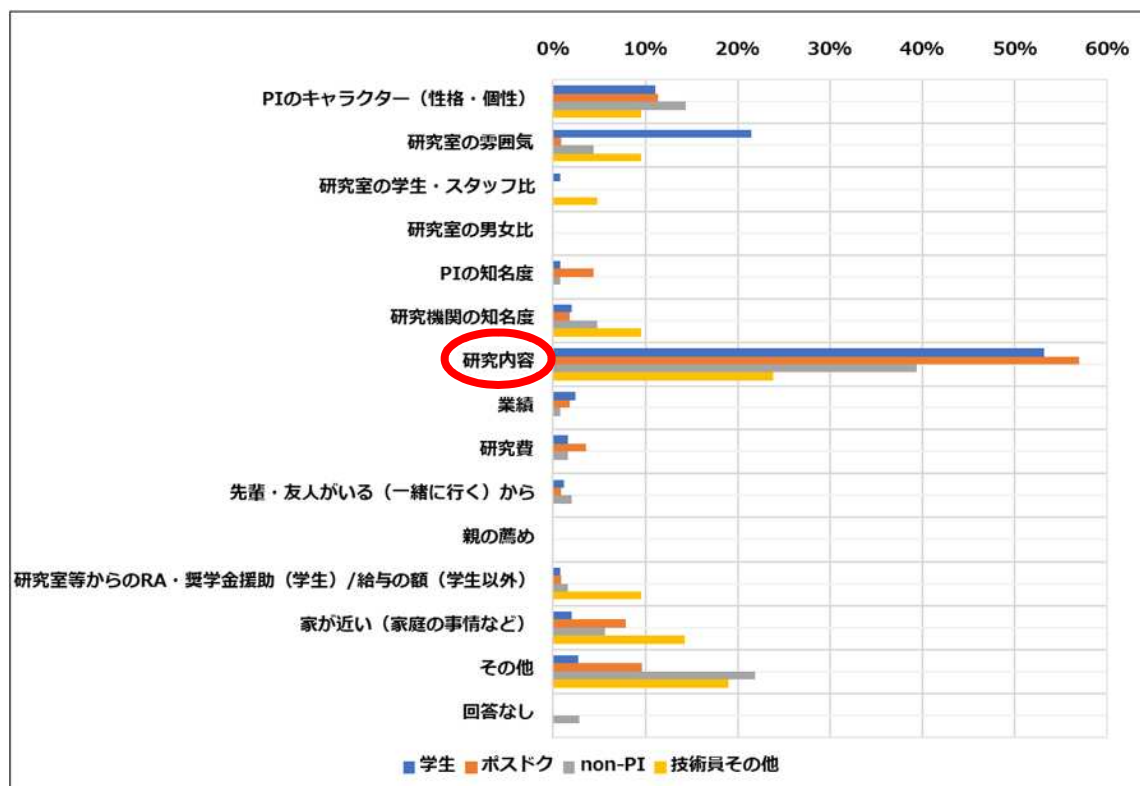
※「学生」は学部学生の回答を含む

・大学院進学を考えている学生にとっては、学部生時代にどの研究室を選ぶかは非常に重要。自分に合わない研究室に入ってしまった場合は、諦めてずっとそこにいるのではなく、進学の段階で他の大学や研究室を選ぶことも考えた方がよい。（40代・大学non-PI）

・研究室配属の前に、研究に向いているかどうかを判断できる材料がもう少し欲しいと思う事が度々ある（20代前半・大学院生（修士））

・High IFの論文を多数出すことは大切だが、IFが低くても、定期的に、各学生がFirstの論文がきちんと出ているラボは、PIや教授の面倒見が良い事だと思う。ラボの業績は、Journalの知名度よりも、first, last, corresponding author が誰かを注視した方がよい。（40代・研究機関PI）

現在所属している研究室を選ぶにあたり、最も大きな決め手になったのは？



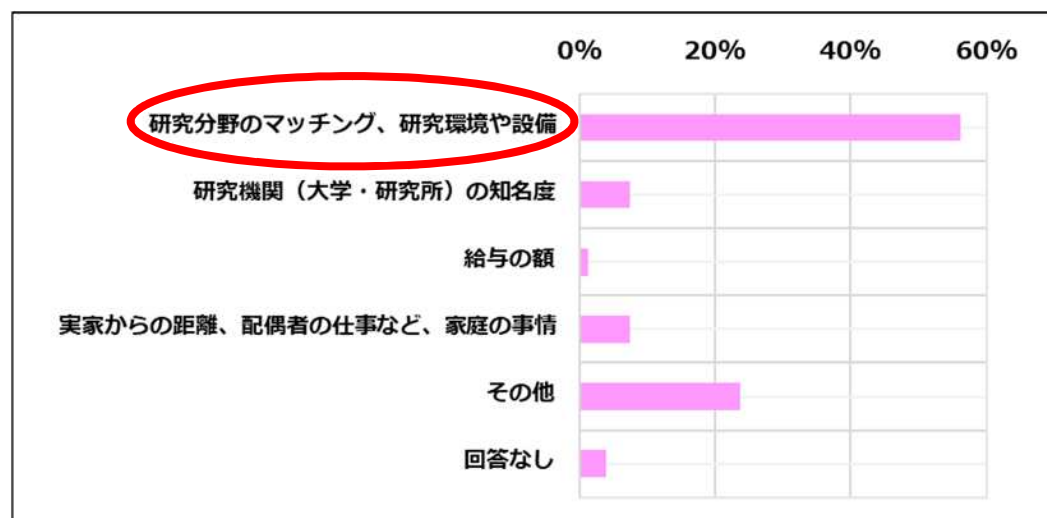
←学生・ポスドク・ non-PI・技術員その他

・世界を目指しているラボを選んだことは自分の人生を大きく変えたと思う。その分ボスは厳格で大変な思いをすることは多々あるが、結果として得られた思考能力や実験技術等は何物にも代え難い。（30代前半・大学以外のポスドク）

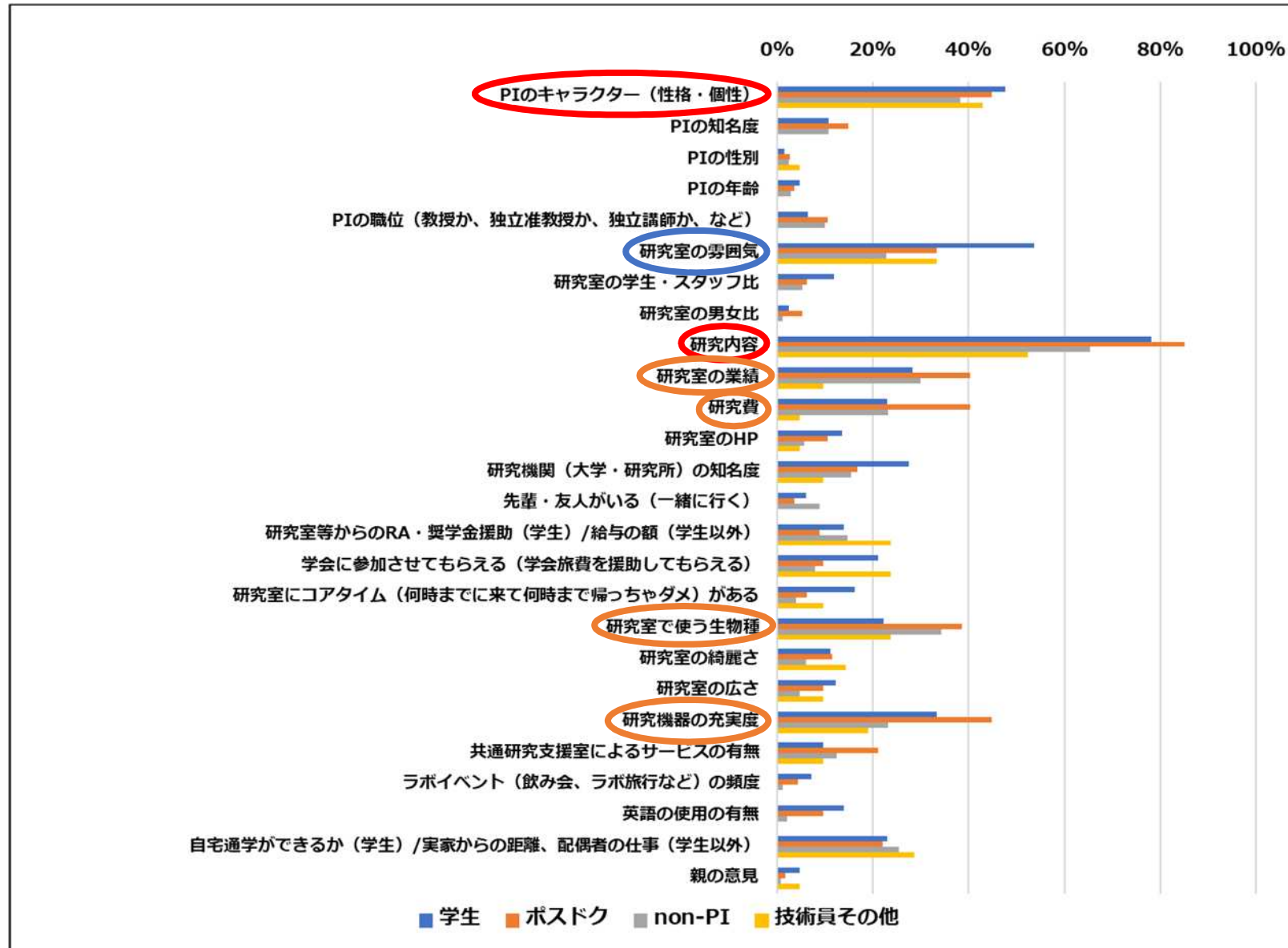
・ラボメンバーはヘテロな方が良い。助教がラボ出身だと手法も考え方も画一的になりがち。（50代・技術専門職員）

PI→

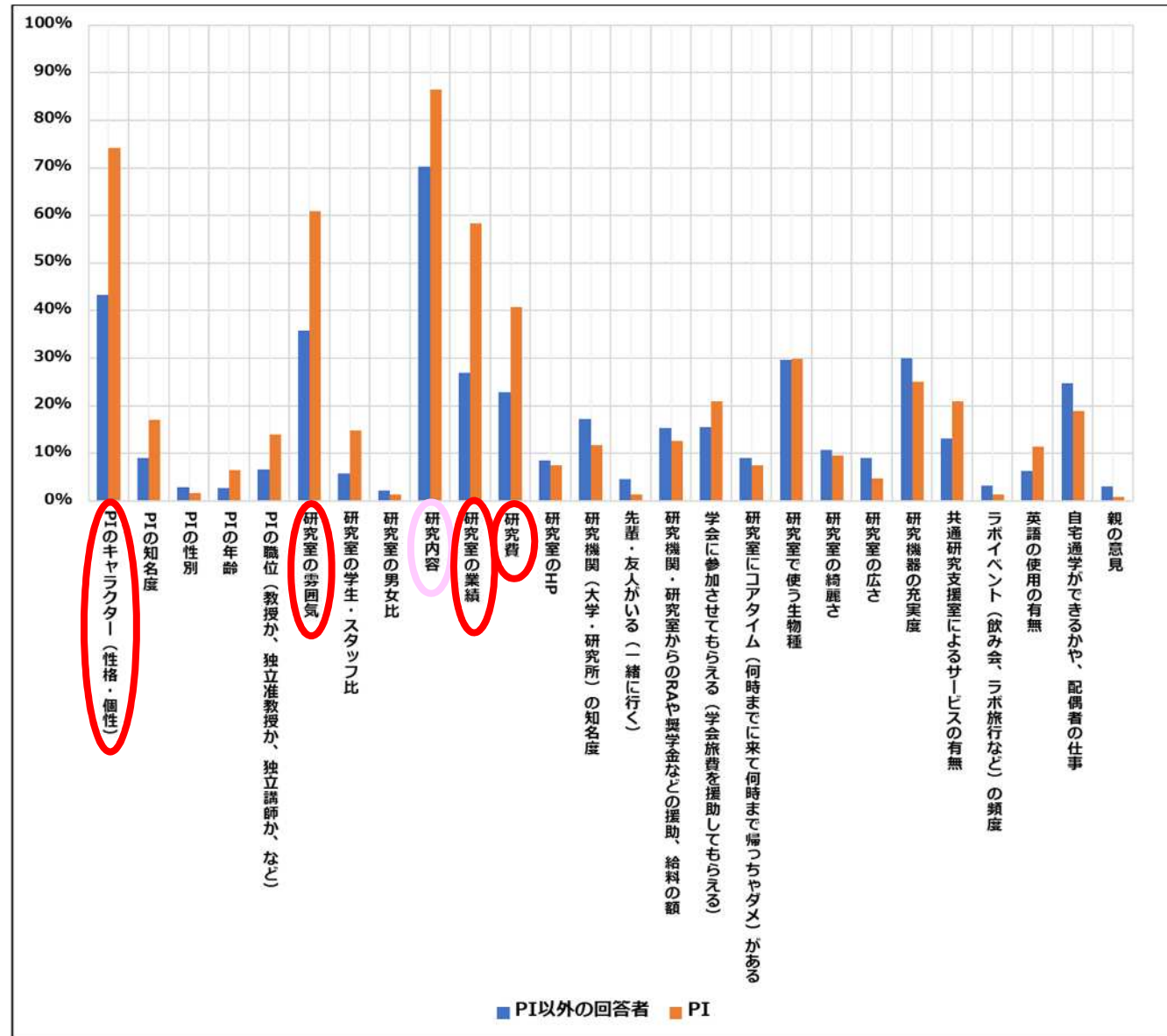
・PIのようになれると思って研究室を選ぶのではなく、その研究室出身の先輩を見た方が良い。つまり、憧れの先輩の研究室に行くのではなく、その先輩の出身研究室を候補にすべき。（50代・大学PI）



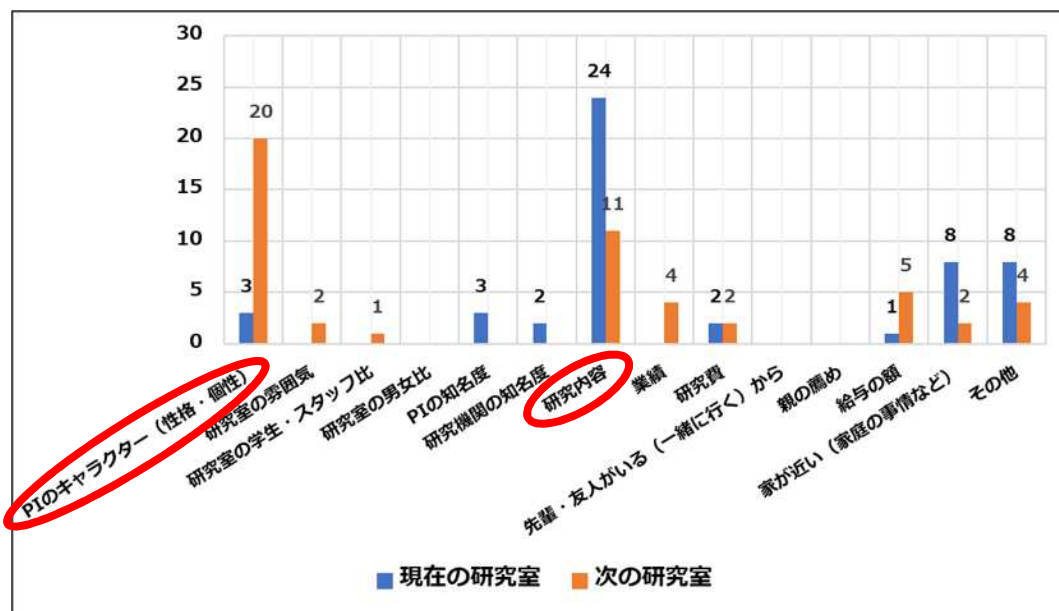
現在所属している研究室を選ぶにあたり「重要な判断材料になった」のは？



PI以外の回答者が「現在の研究室選びの際に重要な判断材料とした」ものとPIが「大学院生・若手研究者に重要な判断材料とするよう助言する」ものを比較してみると



「次に研究室を移るなら前回とは違う視点で選ぶ」と回答したポスドク・non-PIが研究室選びで「最も大きな決め手」とみなすものは、どう変化した？

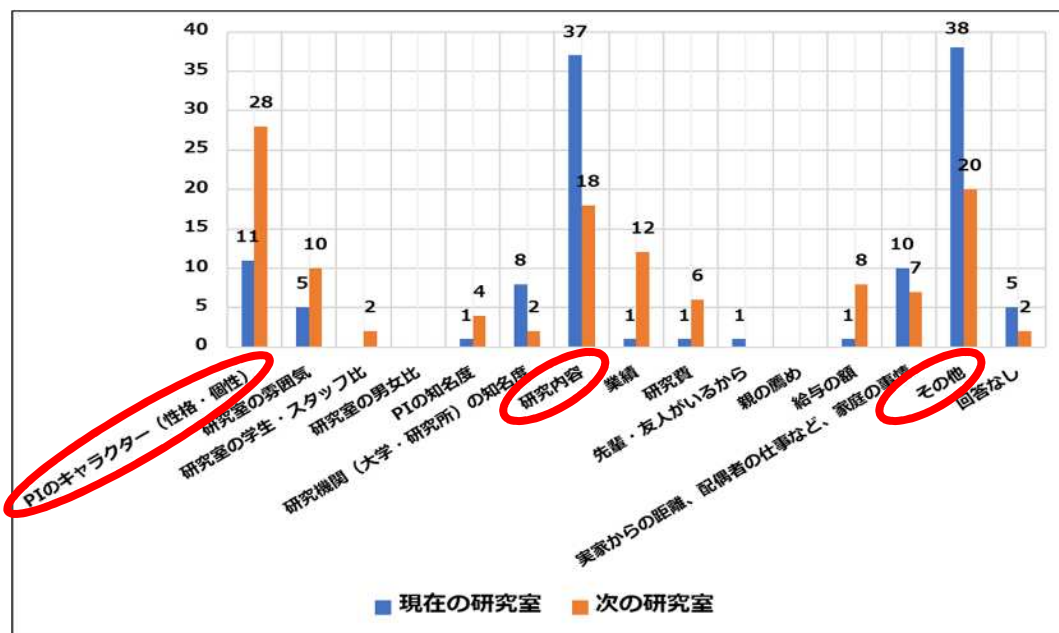


←ポスドク

該当するポスドク 51人中 (人)

・PIの人格的な問題についての情報収集が何よりも大事。(30代前半・ポスドク)

・PIの個性も重要ですが、メンバーがどう
いう人たちで、その人たちがハッピーかど
うかも重要だとおもいます。(40代・研究
機関non-PI)



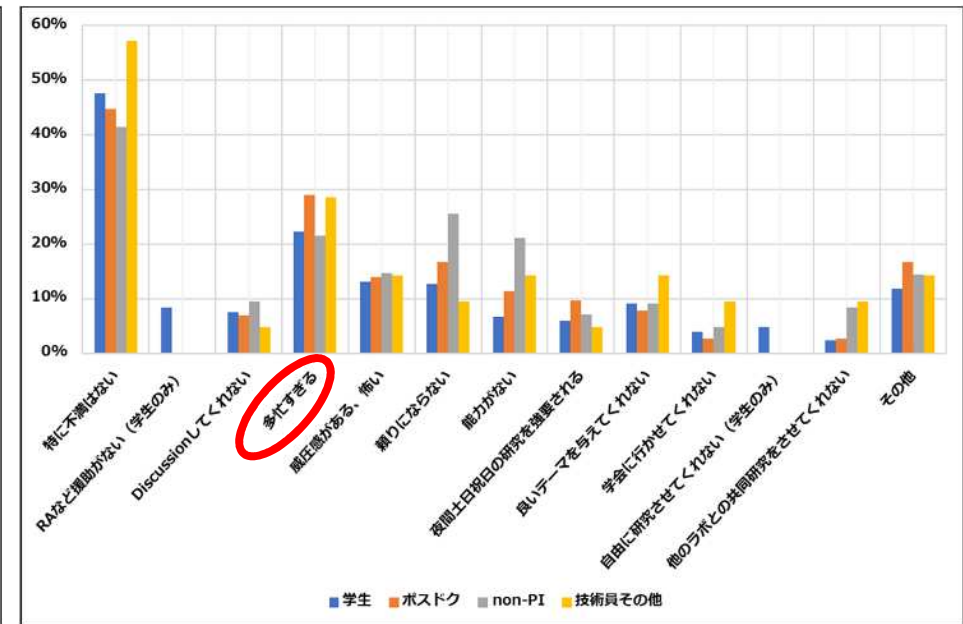
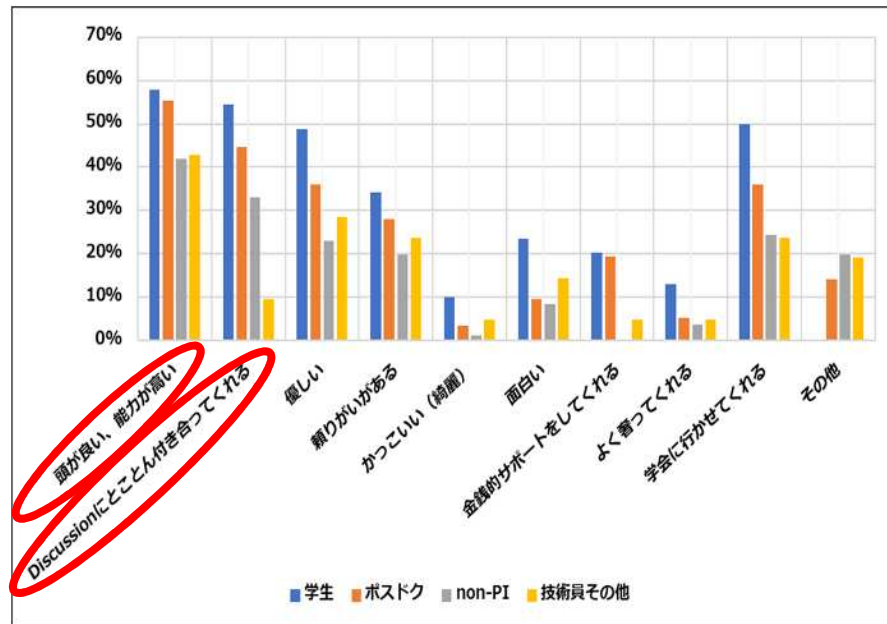
←non-PI

該当するnon-PI 119人中 (人)

※non-PIの「その他」について
「現在の研究室：その他」は「どうにか得ることのできた職であり、選択の余地はなかった」との回答多数。

「次の研究室：その他」は、ほぼ全員「PIになれるかどうか」。

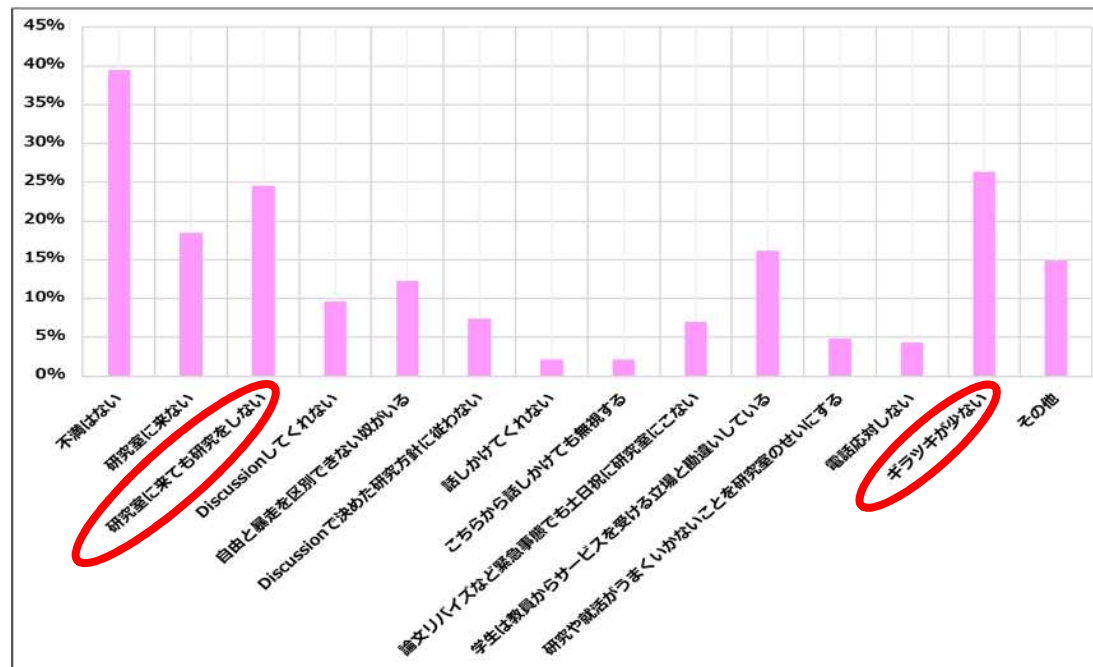
研究室の学生・スタッフからみた、上司・ボス（PI）の好きな点・不満な点は？



↑ 好きな点

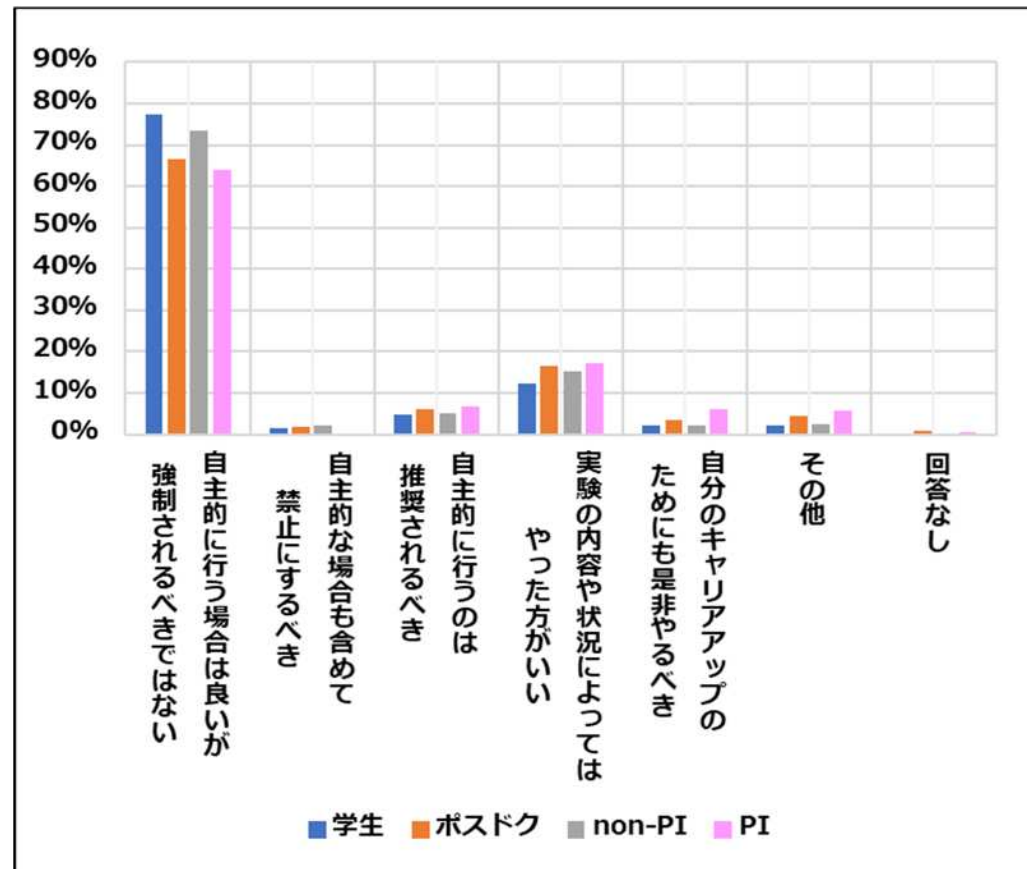
↑ 不満な点

PIのほうは
研究室の学生・
スタッフをどう
思っている？→



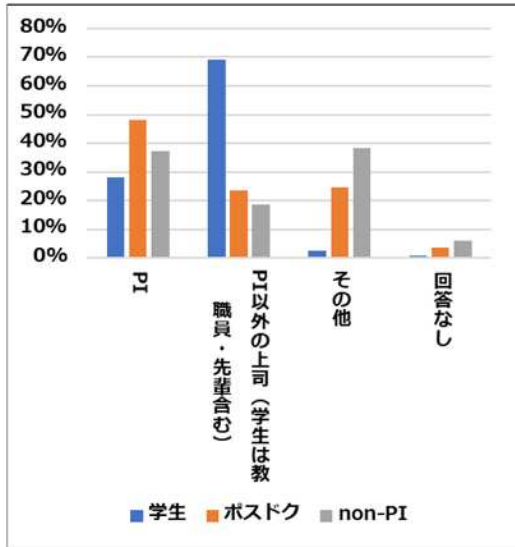
・いわゆる「ブラック研究室」と言われていても、中の人たちが楽しそうに文句を言っているラボは良いラボだと思います。(50代・大学PI)

夜間土日祝日の研究についてどう思う？

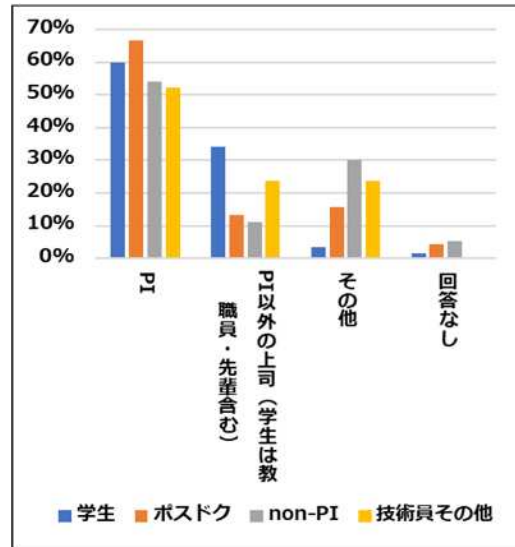


- ・夜間は事故の可能性があるため、極力避けるべき。時間がないなら朝早く来て始めるほうがいい。研究時間が長いこと、研究室の滞在時間が長いことは、業績とは無関係。むしろ時間効率の悪さをさらけ出している。（40代・研究機関PI）
- ・「正月は休むと言っていましたが、もう2日です。いつから研究室に来るのですか？」（50代・大学PI）
- ・学生を含めて「研究をする立場の者」の場合は必要に応じて自主的に行うことはOKだが、スタッフ（非研究者）には余程のことがない限り来るなと言っている。（50代・大学PI）

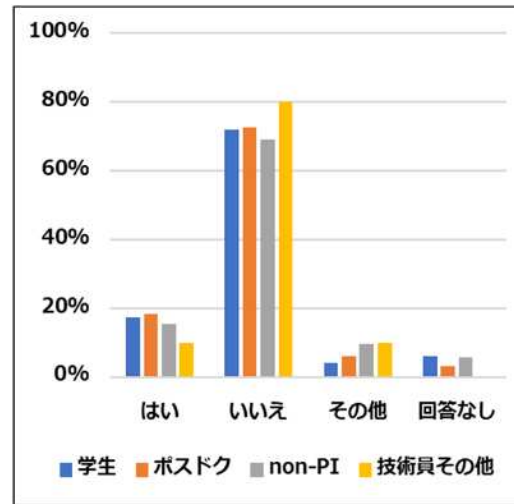
研究の技術指導をしてもらう相手は？



研究の方針・方向性の指導をしてもらう相手は？



PIの指導がないのは不満？ （研究方針・方向性指導をPI以外から受けている回答者）

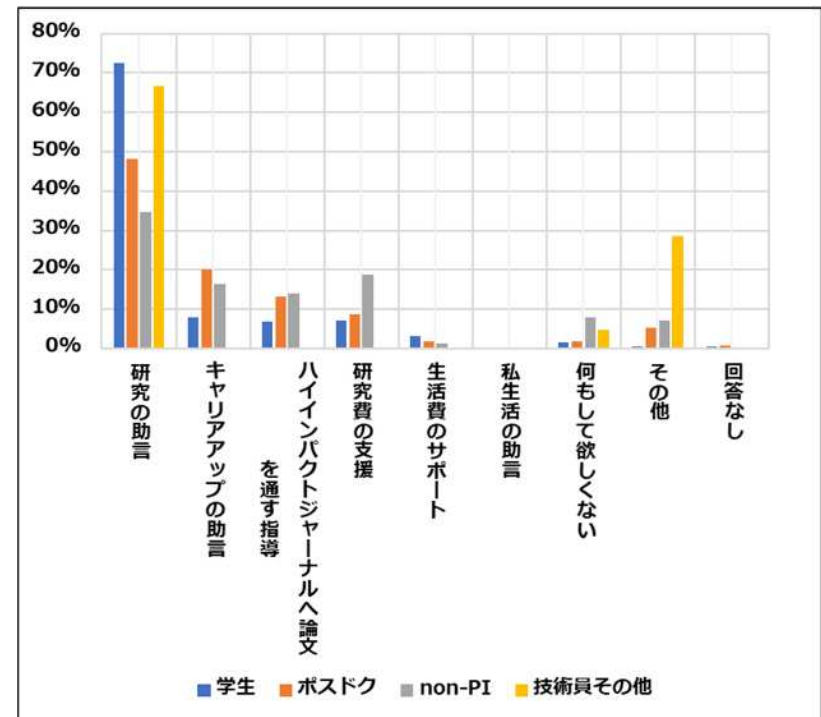


※ポスドク・non-PIの「その他」について
特に技術指導は「自助努力」「自分にはない技術は共同研究者などの専門家」との回答が多数。

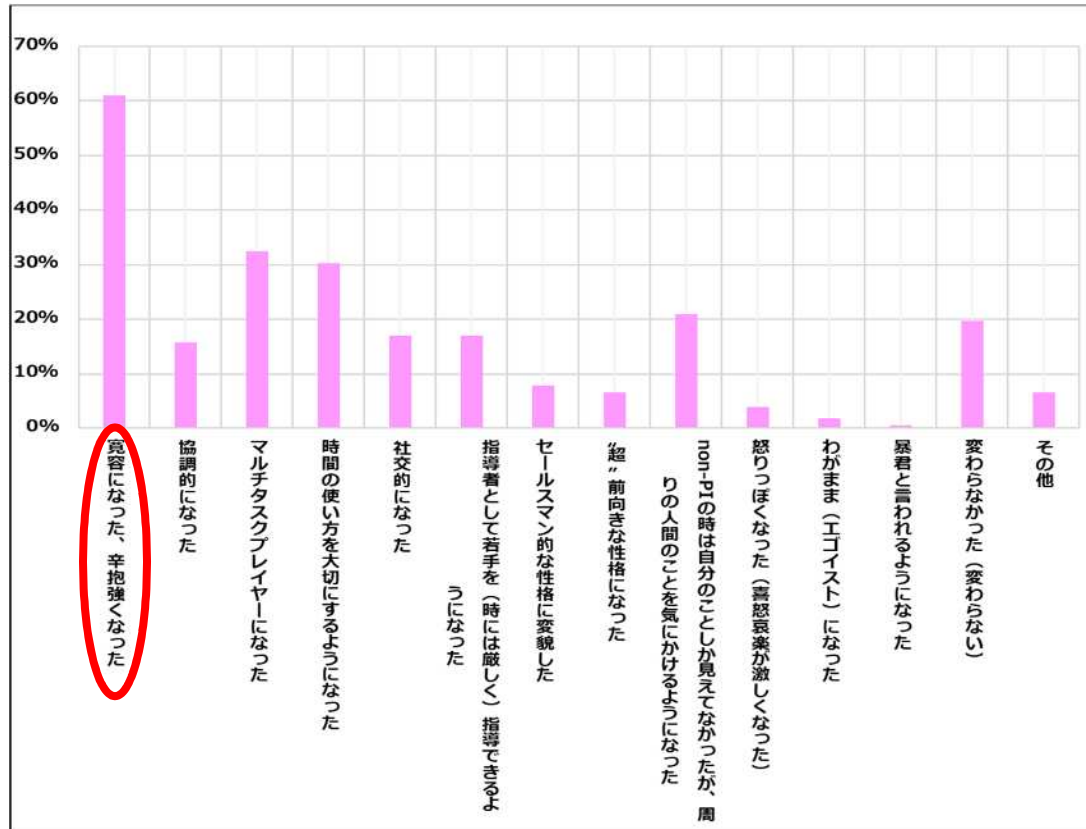
ボス、PIに求めるものは？

・PIが、将来の目標に合わせて最適な指導、テーマ選びをしてくれること。部下がアカデミアでのポジション獲得を目標にしているなら、high impact journalに論文を出すための指導や予算の書き方、企業に行くのが目的ならば、学生の指導経験や多様な技術を身につけさせることに重点を置いた指導をする。そして非常に重要なのは、PIがメンバーそれぞれの次のステップ(卒業、就職)へのタイムラインを常に考えて研究の進展状況を管理することだと思う。(30代後半・大学のポスドク)

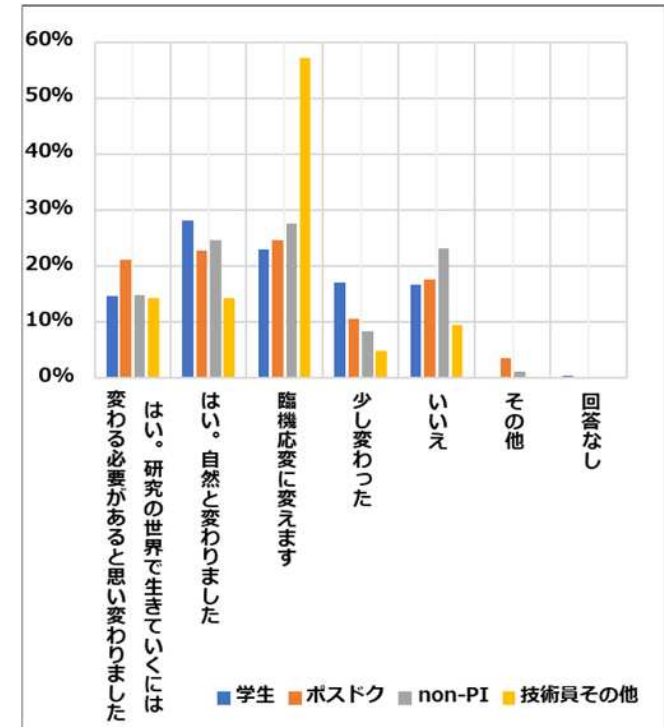
- ・サイエンスへの情熱とバランス (40代・大学non-PI)
- ・scienceが好きであること (50代・大学non-PI)



研究の世界は性格を変える？



PIになってから（あるいはなるために）性格が変わったことはあるか（PI）

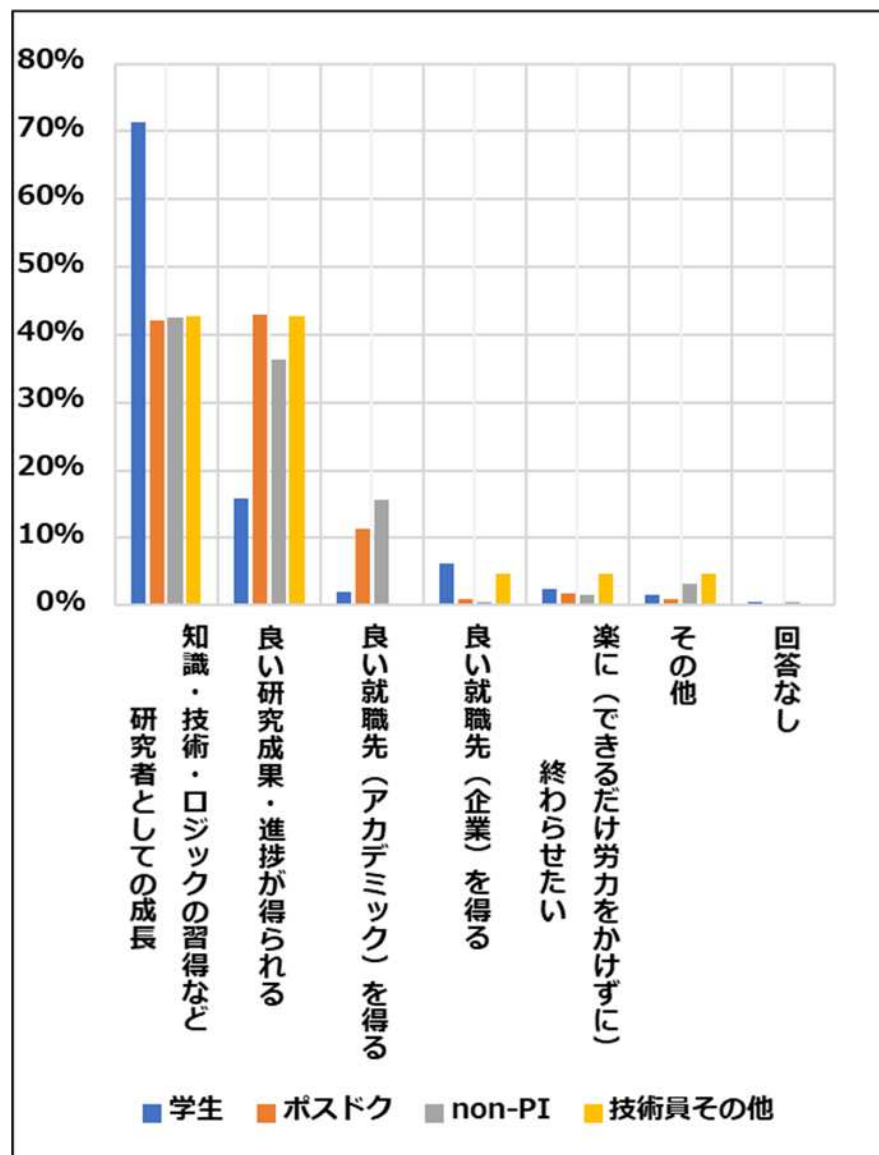


研究室に入ってから（表面的にも）性格が変わったと思ったことはあるか（PI以外）

・驚異的に忙しくなって、細かいことに寛容になった。とはいえ、怒らなければならない機会も増えたので、怒りっぽくなったというのとは少し違うかもしれません。（40代・大学PI）

・研究室も生き物のようなもので、あなたが入ったことによって研究室自体も変わる（変わってしまうし、変えることもできる）ことを認識したら良いと思う。（40代・大学PI）

今の職の期間（学生は大学院時代）で研究に求めることは？（PI以外）



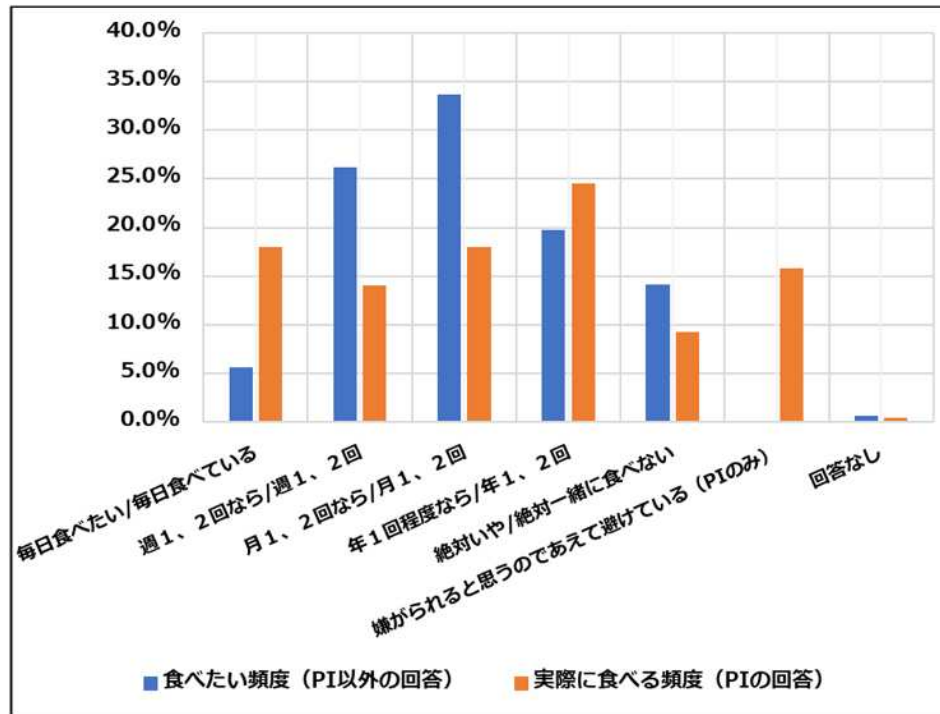
・学振などのフェローシップに当たった人ほど就職に舵を切っている所感がある（20代後半・大学院生（博士））

・博士なら学位を取れるか、ポストクなら自分がラボに来た目的を果たせるか（技術を身に着けたいなど）、と言った自分のステージに合ったことができるか。例えば学位を取りに来たのに学位にならない研究の経験値を積んだところで、学位がなければ次に行けないのでその経験が活かせることもない。（20代後半・大学のポストク）

・魅力的な研究内容であるのはそうだが、学生目線でいうと、広すぎない研究キーワードが一言でわかりやすい研究室の方が、目的意識の揃った人が集まりやすい傾向はあるように感じる。厳しすぎない風土は大切だが、容認しすぎる風土も危険。最近は修士卒で出て行く人が多いので就活の雰囲気にも吞まれる傾向もある。修士までであってもしっかり研究をしたいなら、博士以上、そしてできればポストク等のメンバーがいるラボの方が刺激を受けやすいと思う。（40代・大学 non-PI）

・研究を楽しんでほしい。（40代&50代・大学PI）

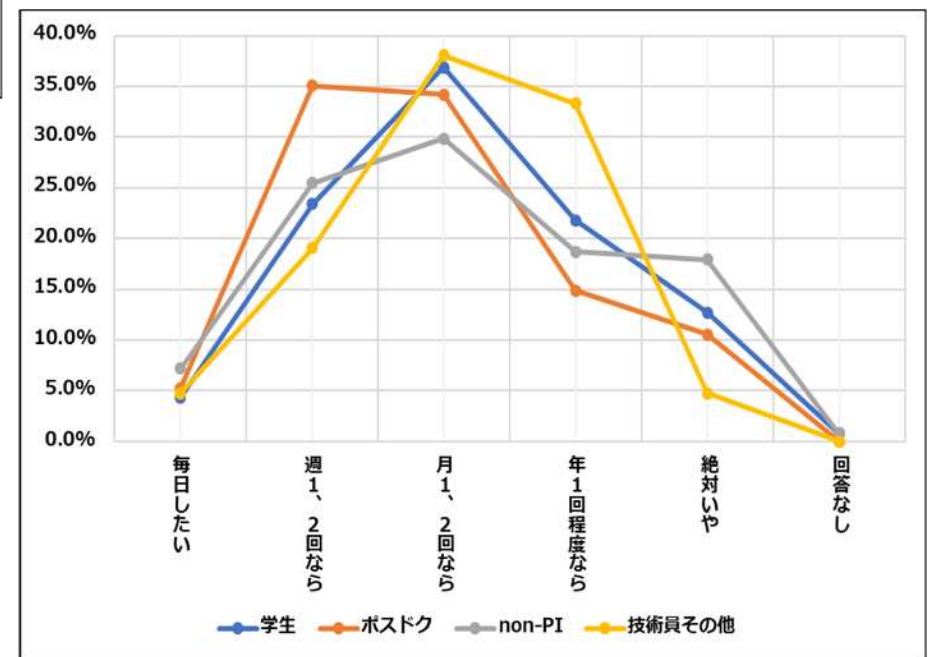
学生、スタッフがPIとランチを食べたい頻度と 実際にPIが学生、スタッフとランチを食べている頻度



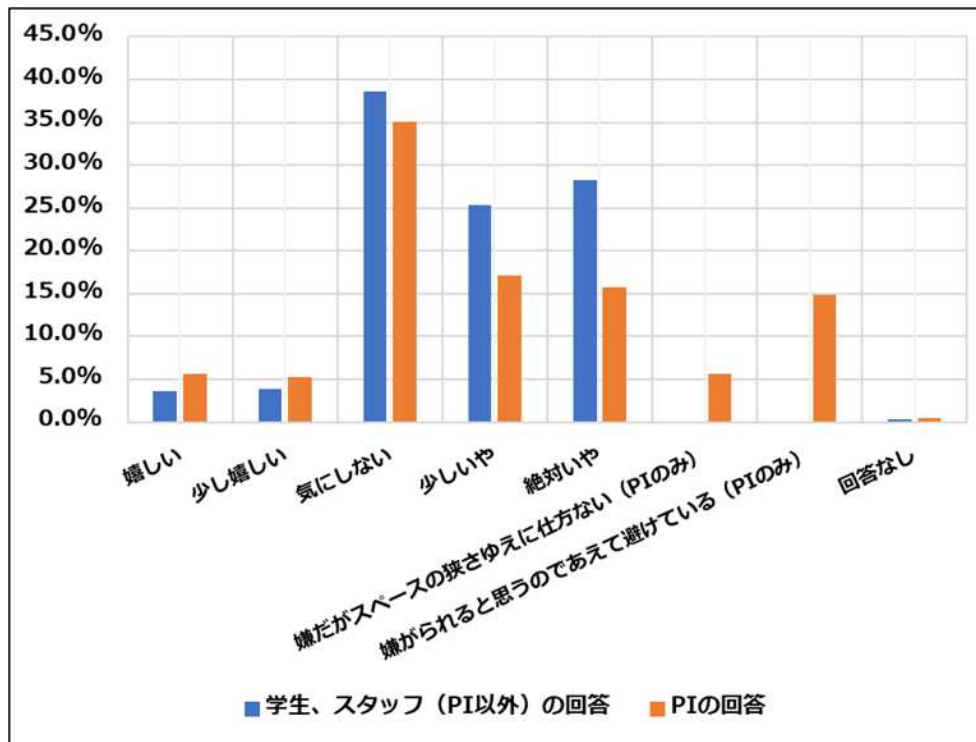
※「食べたい頻度」はPI以外の回答の平均値。その内訳→

・結局のところ縦 (OB/OG、後輩) 横 (同期、同僚) 斜め (他の研究室) の繋がりがオープンで風通しがいい、という形に落ち着いているのが良い研究室に共通する点だと思います。(50代・大学PI)

・ディスカッションしてくれるかどうかは重要だと思う。学生の場合は特に。(30代前半・ポスドク)



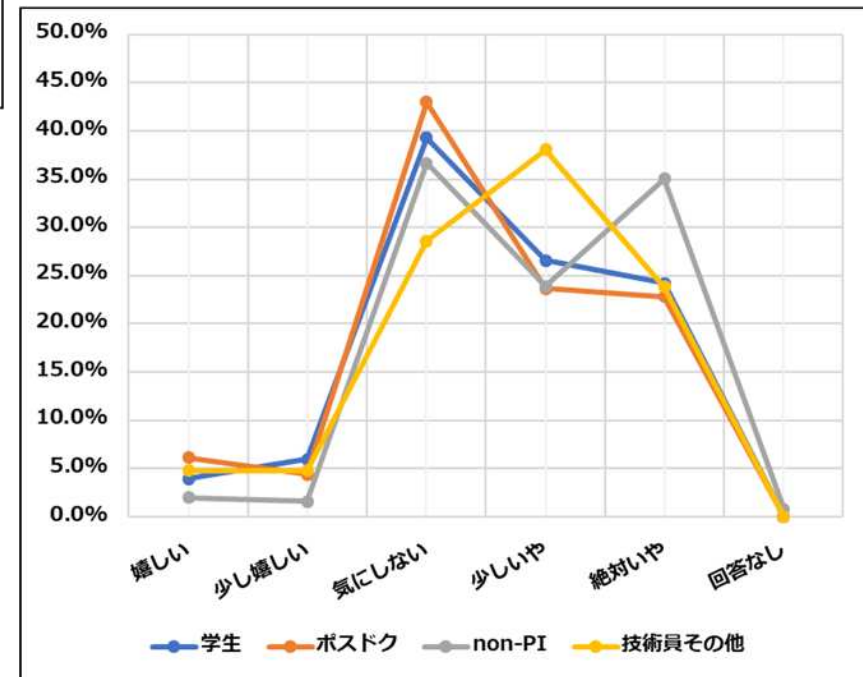
学生、スタッフとPIのデスクが同じ部屋にあるのはお互いにどう思うか



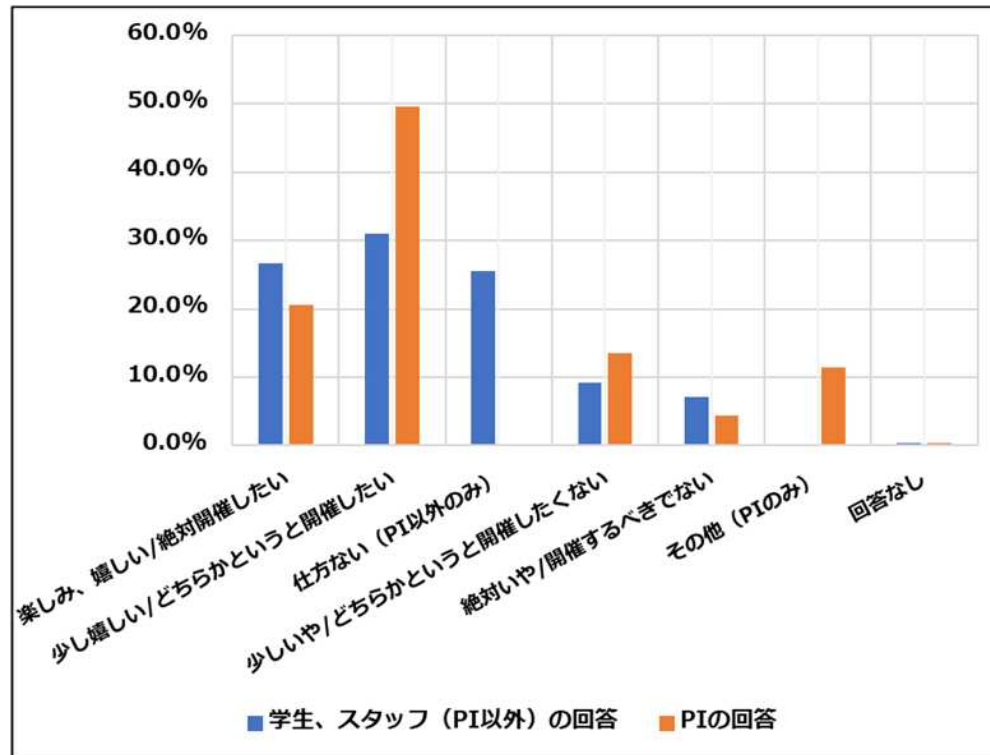
※学生、スタッフ (PI以外) の内訳→

・ 学生時代はPIの人柄や性格は研究室生活に関係ないと思っていたが、とても重要なポイントであり、研究室＝日中いるところになるので、PIや関係スタッフが自分の私生活に理解があるかが研究室での居心地の良さにもつながると感じている。(40代・大学non-PI)

・ PIによっては、性格的に絶対に合わない人もいると思いますが、ほとんどの場合、自分自身がその研究室に上手く対応できるかどうかが一番重要だと思います。それぞれの個人の性格等に完全に合う研究室など世界にそれほど多くないです。もし対応できなければ、どの研究室に行ってもおそらく無理だと思います。対応できない方は、研究以外の仕事でも難しいのではないのでしょうか。(40代・大学non-PI)



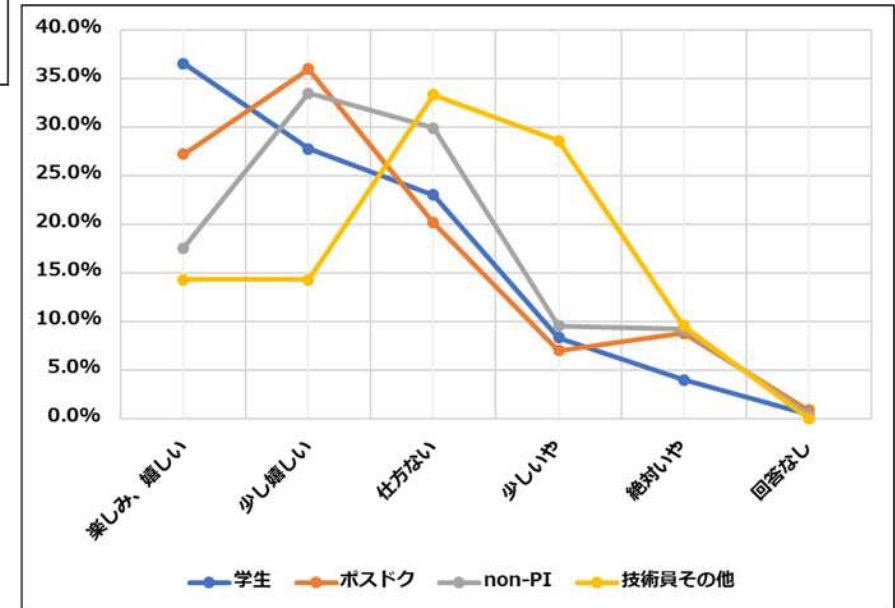
ラボのイベント（飲み会やラボ旅行など）があるのはどう思うか



・有志に開催してもらい、私は福澤諭吉に代理参加させる（40代・大学PI）

※学生、スタッフ（PI以外）の内訳→

・研究室超えた飲み会が定期的に有ると研究棟の雰囲気良くなるので、研究室(PI)同士の仲が良いか悪いかっていうのは重要ではないか。（20代前半・大学院生（修士））



・一番PIに聞きたいことの一つに「ラボのメンバー数を維持するために、大学院生に対してハイインパクトジャーナルへのアクセプトという高い目標を設定させ、学位取得のハードルを高くすることで、ラボに置きとどめさせようとしているのではないか」ということがあります。（30代後半・大学院生（博士））

・研究、実験する上でなにより楽しくないとやっていけない。

（1）ラボとして目指す夢が明確であること。デカイほど良い。（2）研究者間での人脈（3）実験設備、研究費（番外）ラボ内の人間関係。入って見ないとわからないのが難しいところだが超大事。（30代前半・大学のポスドク）

・移籍以前はあまり気にしていなかったが、やはり業績はそのラボの状態を示すバロメーターだと強く確信するようになった。自主性を重んじ、自由にやらせるということは大事だが、あまりにそれが過ぎるとただの放任主義であるし、研究室の運営にも関わることであるので、重要視すべき点である。（30代前半・大学以外のポスドク）

・研究室選びには、テーマとPIの人柄（ラボの雰囲気）が重要な選択基準だが、実際には、出産育児のためにブランクを作ってしまったために、そのような贅沢な選択は不可能に近い。となると、1日の大半をまた休日を使ってでも向き合えるような、魅力あるテーマがあるということが優先されるように思う（50代・大学のポスドク）

・風通しの良さ。異なるスタッフについている学生同士でも自由に議論ができること。スタッフ同士の信頼関係がしっかりあって仲が悪くないこと。研究費がそれなりにあって学生に自由度がある程度あること。教授が相手でも自由に意見や質問ができること、それで不利益を被らないこと。サイエンスを一番と思える人が多数派であること。（40代・大学PI）

・学生は間違いを臆せず、ブレインストーミングで発言して欲しい。（40代・大学PI）